



大いなる助走

ポールの先端を高く揚げて
いま 前方のバーをにらむ
宙に引かれたバーは
風に揺らいている
越えられるであろうか
深呼吸ひとつー
鍛えられた筋肉に力が漲(みなぎ)る
そしてー
いよいよ 決意の一步
大いなる助走の始まりだ
ポールジャンプの選手
それが君だ
成功も失敗も
我が身ひとつのものだ
ポールが君と共に
助走路を走る
大いなる助走
大いなる飛躍
そして
君の体は宙を舞う
(沖縄県/伊波先生より)

～高校総体・総文を前に～ さあ！スイッチを入れ直せ！

サッカーで快心のゴールを決めた時、野球でタイムリーヒットを決めた時。スポーツ番組を見ていると、ガッツポーズをする選手の姿をしばしば見ます。

ガッツポーズをしながら心の中で叫ぶ「ヤッター」という言葉。思えば、君たちもこの北高への合格が決まった時、この言葉を叫んだはずですよ。

人間は母親の胎内に十月十日を宿して、この世に「オギャー」産声をあげます。「オギャー」が生命の誕生の瞬間であるとするならば、「ヤッター」は目標達成の瞬間だといえます。しかし、大きな違いは「オギャー」というのが自分の意志の外のことであったのに対し、「ヤッター」は自分の意志のもとにあるということです。自分の意志の持ち方でどのような目標も立てられ、その達成も可能となるならば、大きな夢を持ち、希望を高く持って、確かな日々を重ねていかなければならないのではないのでしょうか。

夢を育てるのはみんなの家族ではない、また、学校でもない。家族も学校も夢を「刺激」することしかできない。夢に生き、夢を育てるのは自分である。もちろん、夢を持つことが美しいのではなく、夢に向かって努力することに意味があるのです。

夢が大きく希望が高ければ悩み迷うことも大きい。これらを避けるのではなく、ひとつひとつをクリアしていかなければなりません。この第二の陣痛に耐えてこそ「ヤッター」という目標実現につながるのだと思います。つまずきながらもひたむきに、まよいながらもひたすらに。

いやいや、そんなに大仰なことを考える必要もない。大きな夢でなくても、小さな目標でもいい。日々、小さくてもいいから目標を持つ、そして、それに向かって努力し、目標を達成する。そして心の中で「ヤッター」って叫ぶ。たくさん「ヤッター」と叫べる人生。刺激的で、こんなに楽しい人生ってないよね。

このように考えれば、高校時代って、人生の目標を達成する大いなる助走の時期と言えるでしょう。また、高校1年、2年は、高校卒業後の進路達成への助走の期間。スタートラインに立ち、目標というバーに向かって、ゆっくり深呼吸をして準備を整える。スタートラインに立つまでの準備も必要でしょう。スタートラインにすら立っていない人もいるかもしれません。

さあ、部活動に所属している生徒の皆さんは、もうすぐ高校総体・高校総文がはじまります。皆さんは「ヤッター」という声をあげることができるでしょうか。

この学校で、皆さんの「ヤッター」という声が聞きたいと思っています。

滝部駅から学校を歩いていると、お店の店頭で、傘立てがあるのを目にします。これは、登下校中、突然雨が降り出したとき、北高生が困るだろうからと、地域の方々が設置してくださったものだそうです。

突然の雨に困ったときは、遠慮なく利用してください。その時は、お店の方の声をかけ、学校の様子などお話ししたりすると、喜んでもらえると思いますよ。いえ、傘を借りるときに限らず、地域の方とどんどんお話ししましょう。みなさんの元気な声が、町を元気にします。

さて、「北高夢ロード」とは、若き日に滝部駅から高校までの道を毎日通った豊北高校の卒業生有志の方々で構成されたグループで、後輩たちを応援しよう、豊北高校を盛り上げることで町を元気にしよう、このような、様々な取組を提案、実施してくださっています。



今回は、栗野川流域でのホテル観察会を企画・提案してくださいました。初めての取組です。ふるさとの自然に興味のある生徒、自然科学系の大学進学を考えている生徒のみなさんは、是非、参加してください。

栗野川流域ホテル観察会

※参加を希望する生徒は、5月26日(金)までに、担任に連絡してください。

日時：2017年5月30日(火) 午後7:30～8:30 (集合時間：午後7:30 (時間厳守))

観察地：豊北町上畑付近 案内：藤岡達雄 (つのしま自然館整理解説員)

集合場所 県道435号 ブルーライン・バス停「五千原」から豊田方面50メートルの旧田耕タクシー広場 (付近に目印を出します)。

解散時間 午後8:30 集合場所が解散場所となります。

参加人数 生徒10名程度と保護者の方々 (生徒が参加する場合は、保護者が車で送迎をお願いします。保護者の方々もどうぞ観察会にご参加ください。)

参加費 一人100円 (資料代) 服装等 夜間歩きやすい服装で。

決してあきらめない。最後の1秒まで

高校スポーツを見ていて感動するのは、選手たちが、最後の1分、1秒まで、決してあきらめないところです。どんなに点差があいても、1点を取りに行く。ともすればくじけそうな気持ちを奮い立たせて、最後まで必死に。もうどうにも逆転の可能性もないのに最後まで元気な姿には感動します。

試合に勝つことは大切です。特に3年生最後の試合ともなればみんな勝ちたいに決まっています。でも、**勝つことが全てなら、こんな盛り上がり方は出来ないはず**です。点差が開いた時点で、もう追いつけないと感じた時点で意気消沈してしまうものです。いつか必ずその瞬間がくるものです。

最後まで元気の秘密 なぜ、こんなにも元気なのか？観察をしてみたことがあります。そのチームは、どんなに点差が開いても、点が入る度に、**良いプレイが出る度に**、そのチームのベンチは拳を突き上げ、大声を出して喜んでいるのです。そこで思ったのは、このチームは、日頃の練習から、仲間の良いプレイを誉めあって、チームを盛り上げているんだろうな、また、一人一人が「良いプレイをしたい」と日頃から努力しているからこそ、たとえ点差が開いても、自分にはできないそんなプレイができる仲間をすごいと思い、その仲間の「良いプレイ」に心から喜べるのだろうなと感じました。

善く生きるということ これは、何もスポーツだけに限ったことじゃないように思います。**良いものと、悪いもの、正しいことと、間違っただけの区別がちゃんとつき、日頃から、善く生きようと努力している人間であれば、世の中の正しいこと、美しいことを敏感に感じとることができるし、人の正しい行動、美しい行動を素直に自分のことのように喜べるんじゃないかな。**

逆の言い方をすれば、何の目的も持たず、ただだらと、つまり、善く生きようとしていない人は、何を見ても何も感じない、つまらない人生を送るんだろうな。

豊かな心ってよく聞くけど、こうやって育まれるんでしょうね。だからこそ、何事にも手を抜いてはいけないのです。